

# 農業・観光・地域・福祉の連携実現 ～通年型観光農園等の運営による地域活性化の拠点～

## 【概要】

温泉熱等を利用した観光農園を運営するとともに、そこで栽培される農産物を加工・販売、レストランで提供することで、通年で多くの消費者を集客している。また、障がい者の雇用に積極的に取り組み、農・観・福連携の実現と地域活性化を両立している。

## 【対象名】

株式会社  
アグリノ里おいらせ  
直売所出荷者数  
(150名)

## 【背景・課題】

- ・「賑わいの中で障がい者の活躍・雇用の場を実現したい」との思いから、平成16年に温泉熱等を活用した熱帯果樹ハウスを整備した。
- ・その後、観光果樹園、直売所、レストラン、農産加工施設、体験工房等を順次整備し、「農業・観光・地域・福祉」をつなぎ合わせた通年型の総合交流施設を確立させた。



産地直売施設の様子

## 【取組の内容】

- ・温泉熱等を活用した「観光いちご園」やバナナ等の南国の果実栽培にも挑戦し、通年型の観光農園として、地元客や観光客にも人気となっている。また、広い通路や高設栽培方式のバリアフリー型施設として、高齢者や障がい者も利用しやすい施設となっている。
- ・障がい者を中心に雇用する「手作り工房」では、もち性小麦加工品、米粉パン、各種スイーツを製造し、直売所やレストランの人気商品になっている。



2020年オープン「キッチンアグリ」

- ・「もち性小麦」を活用した特産品開発のため「もち小麦普及委員会」を設立し、地元のメンバーを中心に商品開発や販売に取り組み、学校給食センターや福祉施設にも活用されている。
- ・2020年に、新型コロナウイルス対策として、南駐車場に気軽に立ち寄れるスペース「キッチンアグリ」をオープン。

## <施設全体の販売額の推移>

(単位：万円)

平成16年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
15,008	25,070	25,224	26,086	24,700	24,109

## 【成果（収益性アップ）】

- ・平成18年に6名の出荷者で始めた直売所は150名まで増え、施設全体の販売額は、約2億4,000万円と、大幅に増加した。
- ・農園管理、加工施設、52名の障がい者を雇用している。
- ・もち性小麦の加工品の需要が高く、地域での消費が拡大している。  
(R1：学校給食センターでの提供、県内外粉販売実績 約10t )